



ソ聯研究資料第四號(昭和八年十二月)



脱走漁民の語るソ聯最近の實相

滿鐵經濟調查會

始



## 脱走漁民の語るソ聯最近の實相

は し が き

去る十月二十三日の滿洲日報に『沿海州から露人漁夫が逃亡——強制労働を厭ひ來滿』と題して次のニュースが載つて居る——『露領沿海州で漁業に従事してゐた露人漁夫ヤングゴフ以下十名はソ聯官憲の強制労働は苛酷を極めあまつさへ糧食始め物資は缺乏をつけ到底堪え難いので本月一日十名は申合はせて二隻のヨットに分乘し沿海州を脱走、對岸の北海道稚内に上陸して小樽から天海丸に乗込みハルビンに赴くべく二十一日來連したが孰れも懷中無一物に近く旅費も有せぬため目下水上署に保護してゐる』——それより數日後本社經濟調査會ロシヤ班は彼等にソ聯内狀の一端を聞くべく一行中の數名を招じて座談的に次に掲げる内容を聞くことが出來た。

此の記事の最初の部分はソ聯邦の一般狀勢ゲ・ベ・ウ及び刑務所生活に關する報道でそれに續いて國內生活の實況に關する談話を問答體のまゝ掲載することとした。

◇  
**官憲對人民の關係** 國內狀態は表面靜穩であつても、官憲に對する農民の隠れた闘争は絶えず行はれて居る。時として農民の一揆や黨員の殺害が起ることがあるが、農民は

武器を持たず、一旦叛亂した場合、連累者のみならずその全村が銃火によつて焼き拂はれ、生残つた者は流刑に處せられるといふ悲惨な目に合はされるので叛亂は餘程の場合でないとは起らない（追放の例はドン・カザーク及びクバン・カザークの如く廣大な地域に互つて行はれた）

全人口の八割を占める農民は消極的とは云へ相當力強い抵抗を示して居る。知識階級、僧侶等の抵抗も存するが分散的で、サボタージや隠れた害蟲行爲（反政府的妨碍行爲）として現はれる。しかし是等の抵抗は雙方共決して害蟲事件裁判として仰々しく騒ぎ立てる程大規模に行はれるのではなくあれはゲ・ベ・ウの仕組む狂言に過ぎない。

ゲ・ベ・ウ 國民大衆の斯様な隠れた抵抗と、労働者や赤軍間にすら存する不満を抑壓する爲めに、政府は最初チエカと略稱せられる反革命非常取締委員會を設け、其後ゲ・ベ・ウ又はオ・ゲ・ベ・ウと略稱せられる合同國家政治管理局を設けたのである。ゲ・ベ・ウは帝政時代の憲兵隊に代つたものであるが、其の権限は比較にならぬ程大きく、ゲ・ベ・ウは機關としてのみならず、個々の代表的部員すら自ら裁判を行ひ、死刑の判決をさへ下し、且つ即座に死刑を執行する権利を有つて居る。此の死刑執行は大部分ゲ・ベ・ウの

役所内で行はれ、銃聲や、苦悶のうめき等はモーターの響で消すようにしてある。

昔憲兵隊に捕縛される者の數は僅かて、大事件の場合に漸く數十人といふ程度であつたが、ゲ・ベ・ウの場合は何千、何萬といふ逮捕が頻々と行はれる。また憲兵隊に捕へられた場合は一般的裁判手續を経て、多くの場合辯護によつて刑の酌量を受けるのが、普通であるが、ゲ・ベ・ウに捕へられたら是れがない。ゲ・ベ・ウは自ら裁判を行ひ、其の處罰法は銃殺を濫用し、云ふに足らぬ輕罪或は全く無罪の者にもすぐに十箇年の懲役に處する事が慣例になつて居る。そして刑務所に收容し切れないので集團收容所（コンツェントラチオンヌイ・ラーゲリ）と名づける所に入れて（尙此の話の本來の意味は捕虜收容所である）各種の強制労働に使役する。

ゲ・ベ・ウは到る處に支局と部員を設置して居るが、脅迫によつて良民をも其の手先として働かせる。それで收容所内でも、さう云ふ間諜が恐しいので仲間同志でもうっかり話が出來ない。また收容所内と云はず國民全體が不機嫌に黙りこんで口を利くのが厭だと云ふ風になつて居る。昔のように石屋や左官といふ様な職人のみならず、村の若い男女が鼻唄交りに噓々として働いた光景は見られない、それで單身又は家族連れて國外逃

亡を企てるが、長いこと一つ釜の飯でも食つて徐々によく肚の底まで知り合つてからでない、一緒に逃亡の相談も仲々危険で、國境が近いと云ふ條件も必要である。今度の漁民も長いことかゝつて用心深く話合つた結果漸く逃亡が成功したのだと云ふ。彼等が異口同音に云ふ所によるとゲ・ペ・ウの勤務者及び手先は大部分ユダヤ人で、生粋のロシア人は極く稀で、そのロシア人はと云へば窃盜、強盜犯、殺人犯と云つた暗い過去を持つ人間が大部分であるといふ。

ゲ・ペ・ウは特務部隊、略してチヨンと稱する軍隊を自己の支配下に有して居るが、この軍隊の徵募方法は一般の徵兵と同じであるが、服務年限が稍長くなつて居る。此の外に特別に募つた支那人、朝鮮人、ラトウイヤ人等より成る部隊が有り、將來之を各自の國に歸らして利用出来る様にきびしい訓練と宣傳教習を行つて居るが、今の所ロシア人の大量的銃殺を仕事として居る。場所によつてコムソモールもゲ・ペ・ウの御手傳ひをして居る。一體ゲ・ペ・ウは如何なる事由によつて逮捕するかと云ふに、逃亡漁夫の之に對する答は文明國人には一寸眞當と受取れない位である。如何なる形式にしろ、ソウエー ト政權に對する直接の反抗行爲が罰せられるのは勿論、惡口だけでもひつくゝられるし

親父か祖父の代に物持であつたと云ふだけですぐブルジョアだとか、富農だとかと云ふ名稱をくつつけられて終始虐められる。一九三〇年以來ゲ・ペ・ウに捕はれる者の壓倒的大多數は農民となり、次に各種専門家、僧侶、最後に有らゆる種類の刑事犯人である。逮捕農民は何萬、何十萬と云ふ數で、それを收容するには從來の監獄で足らずに新設しそれでも足らなくて集團收禁所といふのを設けるに至つたのである。

**集團收禁所** 集團收禁所といふのは大抵人家も何もない未開地に設けるを常とし、ロシア全土に互つて居るが殊に北部の森林伐採場、漁場または金鑛に多くとにかくソウエー ト政府が囚人を驅使しようと思ふ所に設けられる譯である。收禁所に入れられて居る者の總數は一寸判りかねるが、一箇所で何十萬を收容するもの（ソロフカ收禁所）が有る所をみると恐らく總數は何百萬人となるであらう。方々の收禁所を廻つた彼等逃亡者の言ふ所によると所内の生活は何處でも一樣な型に入れられて居る。被收容者は懲役に服して居る囚人扱ひを受け、何時、何處で、何時間こき使はうと勝手で、普通過激な勞働をやらせ乍らゲ・ペ・ウには維持經費は非常に安くついて居る。囚人は怪我をしゃうが病死しやうが誰も責任を負はない。落伍した者即ち死亡した者の代りにはどし／＼新米

が送られる。罪名は何とでもくつ付けてひつくゝるに手間ひまは要らないからである。此處に收容される者は廿世紀の奴隸で、誠に氣の毒な者である。逃亡者の言によれば斯様な收容所は極東にも多數にあつて、夫々森林伐採、漁業、金鑛業に使役され、最近は國境の陣地構築等にも使はれて居るらしいといふ。極東に流された囚人の主要な集散所は浦鹽にあつて何萬といふ人間が此處へ送られて、更にこゝから各地の收容所へ分配される。金鑛のあるコルイムといふ所へ多數送られて行くが、行つたら最期大部分はこき使はれて死んで終ひ、歸つて来る者がないので、皆怖氣を振るつて行きたがらない。逃げようにも同地は歩き通せぬ曠野の眞中にあるのである。

**スウェートラヤ收容所** スウェートラヤ灣の同名の川に沿ふてあるスウェートラヤ收容所こそ今回十名の囚人漁夫が逃げ出して來た所で（スウェートラヤ灣はアムグーの北方七〇キロ米）彼等は二隻の漁船に乗つて脱走したのである。その言によると同所の收容所は一九三〇年に設置されたもので囚人は汽船に乗せられて何一つ見當らない砂濱に上陸させられ、雨をしのぐズツク天幕しか何も無かつたが、早速住宅用バラツクヤ、水産製造用の建物の工事に着手し、困苦缺乏の中に現在の建物が出來上つたといふ。此の

收容所には三千人の囚人が收容せられ、近年は多數の婦人も送られて來て、矢張つらい勞役に従事させられて居る。バラツク内には普通三段、四段に板張りの寢臺を設け、其の高さは背をかかめて漸く腰を下し得る程度であり、通氣の悪いことなどはひどいものである。また皆が蚤や、しらみをわかつてゐるが、多數雜居するのと、シャツの着換の出來ぬためこれを免れることは不可能である。罹病率は非常に多いが醫療施設は全く存しない。冬期バラツクの中は寒いので帽子を冠つたまゝ、寝起きするが、寝てゐる中にガラス窓や壁に帽子が凍り着いて剝すのに骨が折れるといつた有様である。一勞働日は普通十二時間であるが、漁獵季中は二十時間から二十二時間も働かされる。逃亡漁夫の衣服は極めて粗悪で、綻び、きたなく汚れ、あの地方の寒い氣候には全く不適當で、冬期の防寒と凍傷豫防の役に立たない。スウェートラヤ收容所の食物も貧弱で魚が主である。しかし魚が豊富でも陸に居る者は一晝夜に僅か魚肉一一五瓦とパン二五〇乃至六〇〇瓦を給せられるに過ぎず、パンは勿論黒パンである。海上に出て働く漁夫は被服も幾らか良く、陸から遠く離れて居る海上で魚は食ひ放題に食べられるし、パンの分量も一人一日七〇〇瓦までに増してある。一漁船に乗込む各組に對して一箇年約六〇〇セントネル

(一セントネルは二十六貫六百匁)といふ風に一定の責任漁獲高を指定する。漁族がうまく寄つて来る場合には兎に角、此の指定額を漁獲することは仲々六つかしく其の失敗に對しては相當の制裁を受ける。



だが一體何故彼等が收禁所を逃げ出したかといふ事情を生き／＼と傳へるために以下問答體のまゝで掲載する。

問 君等が粗末な漁船に乗つて、しかも嵐を冒して逃亡を決心したのは何故か。

答 もはや此の冬は收禁所で命が保てないといふことが分つてゐたので、どうせ死ぬなら何處で果てるのも同じだし、むしろ早く死んだ方がましとも考へたのです。逃げた方が未だ助かる望があるのでソウエートのモーター・ボートに追付かれたら命は無いことを覺悟の上で決行しました。

問 君等は何處から收容所へ送られたのか。

(彼等は此の間に對し順々にアルハンゲリスク、アストラハン、ノヴゴロド、チエルニゴフスク等々と答へ、ロシヤ各地の代表が殆ど皆集まつてゐる觀がある)

問 諸君の家族は何處にどうして居るか。

答 吾々にはよく判りません。吾々を追放した後大抵家族も追放に處せられた(彼等の中の二人は同じ收禁所で父と伯父に出喰はしたといふ。皆農夫である)

問 諸君は一體何の廉で收禁所へ入れられたのか。

答 吾々は川や海の岸に住んで所有地面も少いので副業として漁業に従事して居たが、或者は家族が少くて手不足の爲めに人を傭つたりした、さうすると牛か馬を一頭位しか持たない者でも搾取者だとか、クラークだとかいふ名稱をくつゝけられて、全財産を没收せられ、十年間の收禁所行きに處せられた、唯、人々によつて所有家畜の頭數が異なる位のものである。クラークの處分法は頗る苛酷なもので、多年辛苦の結果たる財産は全部取上げられ家族は分散してしまふ。そしてこれらの人々は忽ち乞食の境涯に落ちて飢えと死に運命づけられるといふ悲惨なものである。

農民と農業

問 農民は舊時代に比較して一體何んな生活をして居るかを話して下さい。

答 到底帝政時代と比較することは出来ません。當時は食物は飽きるほど食べ財産もあ

つたが、今は貧乏になり下る一方で、是より劣る状態はない、何のことはない滅亡しつゝあるのである。

問 農民の全體が共營農場(コルネズ)へ加入したか。

答 否、全部ではない、強制的に加入させるので自然に委せたら誰一人入るものでない。

問 コルホズに加入しない者も土地を所有出来るか。

答 今では誰にも自分の土地といふものは無い。帝政時代の共有地制に於ても、各自の所有地も認められてゐて、土地は分配仕直しは出来たが、没収することはなかつた然るに今では折角播いた作物もろとも没収されることが幾らもある。

問 自分の土地が無いとすれば農夫は何處で働いて食糧を得るか。

答 土地は國家に願つて貸して貰ふが殆ど收穫の全部を國家に提供しなければならぬので貸下を願ふ者も不承無精である。

問 農民の家屋はその有として残されてあるか。

答 家屋は残つて居るが農具もろくに無くなつて居るし、家畜、家禽等は租税が高いので飼はなくなり、従つてその畜舎等は皆無くなつて居る。

問 役畜や、ろくな農具がないとすれば農夫はどうして耕作するか。

答 土地を給せられた者は播種しなければならぬが、種子は勝手に調達しなければならず、それが出来ないで播種しなければ、土地も家屋も取上げて、十箇年の收禁所行きを言渡される。また自分で播種する力がなければコルホズへ加入しろ、それが厭なら收禁所へ行けと来る。

問 君は全收穫を取上げられると言つたが、それは果して本當か。

答 確かに其の通りです。全部を一時に取上げてしまふ。自分の食糧としては村落ソウエートへ出頭して、一定の食料割前を受取る。麥粉は一箇月に唯八キロで、それも畑に出て働いた者にだけ給せられる。妻女も畑に出て働いた場合にのみ同女の分として與へられるが、働かなければ貰はれない。小供の分も與へない。勝手に遣り繰りしろと云ふので、其の結果、飢えて榮養不良に陥つて死んでしまふ。

問 取上げた穀物に對して國家は金を拂ふといふではないか。

答 さう、拂ふには拂ふが、裸麥一布度に付一・〇六或は一・一八哥といふ程度で、しかもこの金額は市場で麥粉一フントも買ひ得ないので。先づ無代で取上げると大差

ない。そこで作物を作つても始まらないと云ふことになる。

問 家畜や家禽を飼ふことは出来るか。

答 勿論飼つても差支ないが、年に牛一頭に付肉三〇フント、バタ五フント、牛乳一八リツトルの税を納めなければならぬ。この税は大して高くないにしても、飼料が無くて飼養が困難なので一九三〇年中に家畜をどしどし屠殺して食べてしまったので、急に減少してしまつた。鶏も一箇年に鶏卵一〇〇箇の税を拂はなければならぬ。然るに飼料が缺乏したり、粗悪のため一年に百箇生まぬものすらあるから、是もひねつて食べてしまつた方がましだと云ふことになる。羊は年に五フントの羊毛を納めるのであるが、之も困難で、それやこれで、今や農家には家畜がまるで見當らなくなつて居る。

問 農民に對する一般的租税としてはもつと何んなのがあるか。

答 各人の稼ぎ高の半分を徴収する税がある。また財産があればその價格の半分を取立てられる。それを滞れば罰金を課せられる。しかも其の額がとても急に支拂へぬ程なので、結局全財産がコルホズに沒收されてしまふ。

問 農民は何處から農具を得るか。

答 總て國家から延拂ひで買ふが、後に金でなく穀物で代償を支拂ふのである。穀物は二束三文に踏まれるが農具は少くも戦前の二十倍位高價である。そこで國家から犂一つ買つたが最期借金に縛られるので犂なぞ無い方がましだとさへ言へる。

問 國家が收穫を取上げた後に扶持を呉れるが、それが不足だと君は言つたが、そんなら人々は如何して生きて行くか。

答 給食量は實際とても足りないが、受取る麥粉でパンを出来るだけ多く焼くために、農民は馬鈴薯や團栗の粉を混ぜる。それでも足りないので草の根を粉にして、それにより前記のかてを混ぜてパンを焼く。その不良なパンの爲めに人間は營養不良に陥り、壞血病に罹る。麥粉を買ふことが出来ないでもないが、一布度二二〇乃至二四〇留以下では手に入らない。それも秘密に賣買されるのである。考へてみて下さい、一布度一〇六哥で取上げられて、買ふ段になると二三〇留以上仕拂はねばならないといふ馬鹿げた話なのです。

問 どれ程つらくとも農民は次第に慣れて來たゞらうね。

答 慣れては來ても、決してそれと和睦はしない。或る外國人がソウエートの農民は滿



足し何にも不足して居ないなど、云ふのはソウエート當局者がよく御馳走し、注意を他に外らせ必要なものだけを見せるからである。一人で村落を訪問させるか、少し住まはせてみるがよいのだ。七十人のコミッサールに取り巻かれて旅行したエリオに何が判るもんですか。

問 農民が穀物の一部を隠匿する様なことがあるか。

答 有るところの話ではない。有らゆる手段で隠匿に努める。これは官憲が農民から收穫を收納すると云ふよりも掠奪するも同然だからである。然し少しでも隠したことが判れば忽ち十箇年の收禁所行きに處せられる。それでも隠すことは已まない。

問 國家の爲めに穀物の沒收に當るのは一體誰か。

答 村ソウエートの何れも飽食暖衣の黨員達です。いろんな者を通して彼等は各人について良く知悉して居るので何一つ隠すのは容易でない。

問 穀物を取上げる際に人民が騷擾を起す様な事はないか。

答 幾らもある、今後も起るだらうが、仲々稀である。何となれば、ドンヤクバン地方の様に調達官吏に對して反抗した場合ゲ・ベ・ウは人口の半分位まで銃殺に處し生存者は何千人といふものを北地や、シベリヤに追放してしまふ。また何處かで、黨員が一

人殺されると屹度農民の首が百位飛ぶ仕末であるから震え上つて手が出ない、また熊手や犂よりほか武器が何にもない。

問 其れ程生活が苦しければ、何時か全國民がポリシエウイキに反抗して起ち上ることはなからうか。

答 助けを借らずに自身で起ち上ることは如何しても出来ない。國外から何らかの衝動があればまた別である。到る處で日本のことが問題になつて居る。皆日本と戦争になればよいと思つて居る。戦争になれば國民も恐らく蹶起するだらう。ソウエート官邊は戦争が怖くて堪らない、後で如何なるか判らないから、何でも戦争だけは避けやうとして居る。

問 現在では労働者と農民とどちらが生活が樂か。

答 勿論労働者の方が樂だが近年は彼等も以前よりずっと苦しくなつて、一日給食量、百乃至四百瓦のパンで我慢しなければならぬ。この食料も働く者だけに給せられ、家族を考慮に入れない。一日でも缺勤するか、指定の仕事量を仕上げない者は食料を貰へない。病氣に罹つた者にすら給食量を呉れない。労働者でも黨員を怖がつて居る

が、それは給食を断たれると死ぬ他ないからである。

問 新聞で見るとソ聯邦には多数のトラクターが農事に使用されて居る様であるが、實際その通りか。

答 トラクターが多数存在することは事實だが、使用し始めると直ぐに四分の三位破損して役に立たなくなる。その修繕にぐつぐつして居る内に仕事の時期を失してしまふ。結局耕作に馬を使つた方がよいと云ふことになるが馬が非常に少なくなつて居る。そう云ふへまをやつた擧句夜間も寝ずに耕作しなければ間に合はなくなつたりする、夜の間には耕すこと故、犂がろくに地に入らない所が有つても判るものでない。その結果收穫はまるで少いものになり、害虫行爲云々といふ問題になる。トラクターなどは何の役にも立たない、矢張り馬でなければ埒があかん、しかし馬の数が充分になるのは何時のことやら。

問 コルホーズに加入しない者もトラクターを使用することが出来るか。

答 否、断じて出来ない。料金を拂つた上でもいけない。非加入者は舊來の方法で耕作する外ないが、馬が足りないので、家族に犂を曳かせたり、自分自身で牛馬代りに犂を曳く。斯んなことは何時の時代に有つただらう。斯様な窮乏、苛斂誅求と奸惡な政

府は何處にも有るものでない。

#### 共營農場及國營農場

問 コルホーズ非加入者の生活が大變みじめだと諸君は言つたがコルホーズ加入者ならどんなものか。

答 一寸考へると加入者の状態はましな様だが、仔細に見るとコルホーズ員は何の目的で誰の爲めに働いて居るのか解らないのである。自分の分とはなく、皆共有で、之に加入するのは自發的意志によるのではなく、家族の餓死を救ふために已むなく入るのである。加入しないと收禁所に行けと脅かされる。最初は脅されて多数の者が加入したが、餘り強制的に加入させるなどいふ命があつてから、次第に脱退者が出て來た。然し其れも初めの間で、結局、脱退者にはコルホーズ員以下の待遇が待ちかまへて居るので脱退も出来ない。

問 コルホーズの仕事は如何いふ風に分配されるか。

答 全コルホーズ員を幾つかの班(ブリガダ)に分け、其の班長が仕事を各人に分配する。班長が幾らか人情を解する者なら未だよいが、随分と無理な仕事量を指定し其れ

を仕上げ終せなければ食量を減らされ、折角働いた労働日もフイにされてしまふ、労働日の計算も實に良い加減で、幾ら働いても人の半分も働かないで胡魔化して居る者に及ばない事すらある。決済は労働日数を基にして行はれ、金銭及現物で支拂はれるが、現物は生きて行くに漸くの分量であり、金銭の方は預金として保管して呉れることになつて居るが、これは誰も引出し得た者がなく、何だ彼だと名目をつけて差引かれて消えて無くなる。

問 コルホーズ員の食事と住居は如何か。

答 住居は従來の自分の家に住んで居るが、コルホーズ加入者なれば其の家はコルホーズの物であるから、何時立退きを命ぜられても文句は言へない。食事の方は一定仕事分量を仕上げれば一日七〇〇瓦のパンを給するが、それを仕上げ得なければ四〇〇瓦以下に減らされる。公共食堂の有る所では其處で食事を給するが、働く者だけに呉れて家族を顧みないんだから、コルホーズを脱退しやうとするのである。

問 コルホーズ員が自分の家族を養ふために私經濟を営み家畜などを飼つても差支ないか。

答 勿論差支ないのだが、租税が高過ぎるので誰も手を出さない。

問 コルホーズの收穫は一體何處へ納まるか。

答 國家の手に納まり、外國へも輸出される。

問 ソフホーズ(國營農場)と云ふのは一體どういふものか、之に入れば生活状態は良くなるか。

答 ソフホーズといふのは國有の農場で、昔の地主の代りに國家が所有主になつて居るといふだけで、昔農奴が地主の爲めに無料で働いたのと同様に今ソフホーズでは國家に對して無料で働くのである。ソフホーズでは被服と食事を給するが、其の他は農奴と選ぶ所がない。誰も之に進んで加入するのではなく強制的に、恰度集團收禁所に送ると同様に入れられるので、コルホーズは少しも感心しないが、ソフホーズの方は尙更劣る。

問 ソフホーズの労働に對して果して少しも賃銀を支拂はないかしら。

答 さう、規定の上では支拂ふことになつて居る。しかも月に七〇留位拂ふことにすらなつて居るが、此の内から最初に食費二五留を差引き、それからレニン室費とか圖

書館費とかソウエート費とか、公債の掛金とか何や彼やと取られるから、憐れにも三留か五留しか残らないのである。この残金すら預金として保管すると稱して渡しては呉れない。

問 ソウエート政府が歿落したらコルホーズやソフホーズは如何なるだらう。

答 忽ち消滅して、もし新政権が禁じなければ分割して各人の物とするだらう。多かれ少かれ自分の物を所有し自分の安住所を求めるのは人間の情です。

#### 農産物及日用工業製品の價格

問 食料が足りないとしても金の有る者は買ふ譯に行かないか。また物を賣つても差支ないか。

答 これは殆ど不可能である。物を買ふことは消費組合だけで其れも組合に屬する者がカードで買ふのである。古物の様な物は別として物を賣る相手は國家だけである。大切な品物でも背に腹は代へられず賣拂ふ者が幾らも有るが、公然と賣買出來ず隠れて行ふのである。

問 新聞にはコルホーズの剩餘農産物を自由に販賣出來るコルホーズ市場のことが出て居るが。

答 新聞には出て居ても、實際の取引高は少く、この市場の値段も非常に高い。例へばパンは一キロ一五乃至二〇留で、白パンは全くない。肉も全然ない。消費組合ではカードで一箇月に一、二フロント買ひ得るに過ぎない。勿論密賣買よりは安いのだが、それでも一キロに付、五留から十留もする。鶏卵は稀に手に入るが、安くても十箇で一留から一留八〇もする。牛乳は非常に少いが、見つければ一リットル、三、四留もする。砂糖と茶は何處を探しても賣つて居ない。石油も何處にもなく、村落ではランプの代りに木端を燃やして居るが、これは七、八十年昔の圖が甦つた譯である。マッチすら手に入れるのは容易のことでない。石鹼は消費組合で二・〇四留で賣つて居るが、一度に三十瓦以上賣らない。密賣市場ではやはり一箇五、六留する。以前は蕎麥、小麦、大麥、燕麥、粟、稗等の碾割が幾らも村にあつたが、今では皆國家に取上げられてしまふので誰も作らなくなつた關係で全く見當らなくなつた。バターも賣物に出て居ないが、其他の脂肪類もない。向日葵の油が稀に手に入つても一盞五〇留もする。もとは一八哥のものであつた。鹽でさへどういふものか、供給不足で不自由して居る。

問 各種の織物の供給はどんなものか。

答 農村で買入れてあつた織物及び手織のものとも、一九三〇年に皆取上げられ、既に裁縫したものすら取上げて現に着て居るものだけ残したのである。そして今買ふとなると、カードなしでは賣つて呉れない。それも質の良くないものばかりだ。

長靴も入手困難で國營賣店や消費組合で、六つかしい手續きて三〇〇から四〇〇留も出して、やつと手に入る。尙ほそんなにして買ふ品物も専らローズ物で長靴なども品の良い物は黨員だけに供給するのである。收禁所に廻る物などは更に品質の劣るものだけである。

問 君の言によると錢があつても買ふ所が全くないといふのだね。

答 其の通りです。それに誰にも金などありやしない。閉鎖式（即組合員外に解放せざる）の消費組合でも組合員が皆品物が買へると限らない。さんざ待たされた擧句買はうとすると品がもう賣切れてないと云ふ、それで世間ではなるほどこれは閉鎖式配給所に違ひないと言つて居る。

問 そんなら生活用品を如何して得るのか。

答 御想像に委せます。それ程生活が困難なんです。衣食も燃料もなく病人は殖え人民

はどしどし死んで行く。子供でもない者は町に行つたら仕事があるだらう。仕事には給食券が付いて居ると云ふので町に集まる傾向が盛になつてきた。そこで當局は食料供給に困難し、新に旅券制度を施いて都市から多數の人口を追放することゝなつた。飢えに追ひ立てられて都會に出た者が又農村に追ひ返されることゝなつた譯で途中の路上や、驛内、列車内で多數の者が行倒れになつて死んで行つた。

### 宗教と僧侶

問 左様な悪い生活では人間が野性的になつて神のことなど忘れてしまつたでせう。

答 どうして、そんなことはありません。祈るのは不便になつたが神を忘れることだけはしない。青少年には神を信ぜず兩親にも背く様な者が多いけれども、國民一般は教會がなくても家の中で、こつそりお祈りをして居る。

問 何故家の内で、しかもこつそりと祈るのか。

答 教會が少くなつたからで、此の減少は教會に高税を課し、それを信徒から徴収する爲めである。しかるに人民は貧乏になつてその税を拂ひ度くも拂へないのである。税を拂はないと忽ち教會を閉鎖して、クラブや、刑務所や穀物倉などにしてしまふ。聖

像は教會から沒收するばかりでなく、民家からも取上げる。税を拂ひ得る教會は存續を許可されて牧師も禮拜の儀式を行ふことが出来る。たゞ現在は鐘をつくことが禁止されてしまつたが、それは人の迷惑になると云ふ理由である。黨人は教會を閉鎖するばかりでなく、時には全く取りこわしてしまふ。こつそり祈るといふのは黨員が非常に祈禱を毛嫌ひして、見當り次第壓迫するからである。

問 教會がなくまたこつそり祈る様では祭日の祝祭を如何するか。

答 それは大變むつかしくなつて、所によつては全然禁止されて居る。人民も隨分野性化したがクリスマスにも復活祭にも必ず労働に出勤させ缺勤でもすると、食券が貰へなくなつたり、うつかりすると名目をくつゝけて收禁所に抛り込まれてしまふ。

問 併しソ聯邦にはセルギー大司教も居ればユダヤ教會堂もあるのにお祈りが出来ないとすれば何をして居るだらうか。

答 セルギー大司教は人民の信仰する眞正のギリシヤ正教ではなくて、生ける教會と稱するものと言はば共產黨の御用を勤める似而非宗教である。人民は此の教會には行くに行かない。

問 現在牧師は冠婚葬祭の儀式をどんな風に行つて居るか。

答 現在牧師は戸籍登録局に届出の上許可されたものだけの儀式を行ふ。同局の許可證を受取つて教會に行く。そして昔の様に教會の登録が決定的有效のものでなくて、戸籍登録局のものが最後のものとなつて居る。牧師が若し許可のない者に儀式でも行へば屹度收禁所送りとなる。以前は牧師を自宅に招いて法養をして貰つたものだが今は殆どない。

問 牧師は生活が非常に苦しい譯だね。

答 其の通りです、農民も辛いが、僧侶は更に一段と苦しい、無権利者と見做されて居るだけでなく、有害な分子と睨まれて居るんだから。持にチーホノフ派の者は餘計壓迫される。生ける教會に屬するものは別として、従來の宗派の者は到る處で輕蔑を以て扱はれ、收禁所でも一番辛い仕事に廻される。

問 そんなら今では聖書に書いてあることを全く教へてはならないのか。

答 そうです。帝政時に學校の科目に入れてあつた聖書概説は今全く禁止されて居るから、教へるのは家庭内に限る。

## 工業

二六

問 ソウエートの工業の状況は如何か。

答 吾々は工業地から遠い所の者故工業については僅かしか知らない。併し村には目ぼしい日用品はおろか釘すらも缺乏し、釘は昔のように村の鍛冶屋に注文して少しづつ作つて貰ふ状態である。

問 各種の農具や鍋、釜等はどうか。

答 農具は作つて居るが、非常に品質が悪く、しかも品不足で、値段は以前の二十倍以上もする。鍋、釜等は、稀に見つかつても極く少い。

問 工場が何れも仕事をして居るばかりでなく、到る處社會主義競争や、突撃隊によつて競争的に生産に努力しながら、製品が缺乏し、質が劣悪であると君は言ふんだね。

答 社會主義競争だの突撃隊のといふことは、むしろ紙の上の事で、黨員が無理にそんなまねをさせるのだ。尤もそれに従事する者の給食を多くしてある。しかし作る物は不合格品ばかりで、數量は多くても役に立たない品ばかり出来上る。

社會主義競争は工場だけでなく農場や漁場にも行はれてゐるが、規定通り契約に署

名し、仰々しく揭示するだけのことで、吾々には何の效能があるか頼と分らない。前には出来高拂制で、何ら競争など行はなかつたが、迅速に生産が行はれて、不合格品はあまり無かつた。労働者の實入りも多かつた。

問 労働者と農民間に何らかの聯絡があるか。

答 何の聯絡もない。今では労働者は自分を支配階級と見做し、獨裁プロレタリアイトと稱して居るが、農民には氣に食はない。農民はあいつらは俺達の肩車に乗つて威張つてやがるんだと云つて居る。農民から何でも彼でも取上げるので、尙更憤慨して居る。穀物には大戦前の値段を拂ひ乍ら、世帯に必要な工産品の値段が二十倍以上もする。これは皆労働者が、のべつに集會を開き、社會主義競争などいふ愚にもつかぬことをやつて居るからだ。

それから労働者は働いて居れば足らぬながらに兎に角給食の保障があるが、農民には何にもなく、飢餓に陥つて居るといふので更に反感を高めて居る。

## 赤軍

問 現在赤軍の徵集方法はどんなものか。

二七

答 以前と同様に國民一般から徴集するが、元は缺陷のない者は皆取られたが、今では無権利者を取らない。この無権利者は非常に多く、元は兵役に取られなければ取られぬでそれだけのことであつたが、今では入營出来ぬ様な者は人間扱ひをされず有らゆる権利に漏れるので、助からない。

問 軍隊内には黨員の数は多いか。

答 詳しく知らないが、一九三〇年以前は赤軍軍人自身が除隊する頃までは殆ど黨員か、黨員候補になる状態であつた。一九三〇年以後は様子が變つて、農村の實家から始終、生活悲惨や、苛斂誅求、血縁者の處罰等を手紙に書いてよこすので黨に對する態度が變り、今の所公然とは表はさないが非常な不満が漲つて居る。黨にもこれが判るので怖がつて居る。

問 戦争の起つた場合、赤軍の向背はどうか。

答 目下、開戦せよといふことを公然と、國民も赤軍軍人も叫んで居る。いろんな理由から吾々の考へる所では敵軍に勝つことは恐らくむつかしい。

戦争さへ起ればソウエート政府が倒れることを國民は承知して居る今では赤軍が國

民に反對して起つことは到底有り得ない。總てを體驗して知り盡した。これ以上の苦みは要らぬ。政府も此の氣運をよく知つて居るからどんな讓歩をしても戦争だけはせぬように努めて居る。

問 日本との戦争について國內で幾らか噂をして居るか。

答 頗りに噂をして居る。また事實極東で戦備を整へて居るが、開戦後の結果を知つて居るから、自分の方からは開戦しないだらう。

國民が對日戦争に希望をつないで居ることは非常なもので、日本が開戦すれば、必ず共産政權を顛覆させ、國民、自身も起ち上るものと考へて居る。軍隊内にも現政府に反對な者が多いから、軍隊は結局人民の側に加擔するだらう。

問 極東には多數の軍隊が居るか。

答 吾々にはよくは判らないが、以前よりずつと多くなつて居るといふことを聞いた。方々に防備を施し、武器の輸送が行はれて居るさうです。

逃亡後の感想

問 逃亡して辿りついた日本内地についてどんな印象を受けたか。



答 日本國民に對し深く感謝して居る。骨肉も及ばない親切を以つて待遇されたのはむしろ意外とする位である。そして早速汽船に乗せて當地に送つて呉れた。

吾々は最初ソ聯へ送還されやしまいかと恐れたが何も心配することはない先方に突き出すようなことはせぬ、滿洲に行くがよいと言はれてこちらに來ました。

問 ソウエートの新聞などを通して考へた日本と自分で見聞した日本とはどう違ふか。

答 全く違つて居るには驚いた。外國はソ聯以上に物資が缺乏して居る様に言つて聞かされて居たが、當地では白パンを食し、其他何でも豊富にあるじやありませんか、向うではウインドウがガラ空きて何も列べてないが、當地はどうでせう、これがソ聯なら、争つて掠奪でも始まる所だ。當地の人間の服装も、あちらとは比べにならない。吾々の身装は向ふではむしろ、良い方だつたが、こゝでは出歩くのが恥しい。

問 當地で何を始めやうと思つて居るか。

答 差當り春までしのぐために何でもよいから仕事を見つけ、春になったら露人が農業に従事して居るといふ三河地方なりへ行つて百姓をやらうと考へて居る。



### 結 語

以上は大連に到着した逃亡漁民の物語つた言葉の儘を誌したのである。彼等は思つたより元氣な顔色をして、新生活の希望に輝いて居る。ハルビンには失業者の多いことを言つてきかしても、ちつとも驚かず、當地では怠け者だけが飢えるのだと言つて居る。現在では大連と奉天に分れて殆ど全部が仕事に有りついて居る。大工やペーチカ工、其他の手職を習ひ覺えて居た者は特に就職が早かつた。此の問答は簡單で、準備もなかつたから、決して、全般的の説明にはならぬが、單純、卒直に述べてゐる感想の内に面白い處もあらう。また問題によつては全く彼等の視野に入らないものもあることは言ふまでもない。だが此のスケッチによつても、二十世紀にあるまじき人間の甚しい奴隸化と食糧難の慘狀がよくうかゞはれると思ふ。

字贈

1004



昭和八年十二月二十三日印刷  
昭和八年十二月二十七日發行

編輯兼  
發行人 大連市黑礁屯四二一

印刷人 大連市東公園町三一番地  
吾妻力松

印刷所 大連市東公園町三一番地  
滿洲日報社印刷所

發行所 南滿洲鐵道株式會社

終

